

在シドニー総領事通信

第 55 回 伊号第 124 潜水艦戦没者追悼式

令和 4 年（2022 年）1 月 28 日



伊号第 124 潜水艦戦没者追悼式で献花するガナー北部準州首席大臣と本官  
(2022 年 1 月 20 日)

豪州では 1 月は夏休みの時期です。皆様はいかがが過ごされましたか。引き続きコロナへの注意は必要ですが、ようやく日常生活が戻り、休暇を取ってご家族で旅行をされた方も多いのではないかと思います。

私は、日豪首脳テレビ会談が先日終わって一息ついた後、今回ダーウィンに出張してきました。本年 2 月 19 日のダーウィン空爆 80 年に先立って、80 年前の 1 月 20 日にダーウィン沖で沈没した伊号第 124 潜水艦戦没者追悼式に出席するためです。



伊号第 124 潜水艦戦没者追悼式参列者の集合写真（2022 年 1 月 20 日）

### ●伊号第 124 潜水艦の歴史と追悼式

1942 年 1 月 20 日、旧日本海軍の伊号第 124 潜水艦（伊 124）は、ダーウィン沖で機雷敷設・哨戒を行っていました。豪州海軍掃海艇に発見された後、魚雷で応戦しましたが回避され、同掃海艇の爆雷と米軍航空機の爆弾を受けて沈没しました。場所は、ダーウィン市から西北西に約 95km、水深約 50mの地点です。

これにより、第 6 潜水戦隊第 9 潜水隊の遠藤敬男司令（海軍中佐）、岸上孝一艦長（海軍少佐）を含む乗員 80 名全員が戦死したのです。戦後、引き上げの試みや無人潜水艇による調査があり、伊 124 の存在と位置は確認されていますが、乗員の遺骨は艦内に残されたままで、戦争墓地として保護されています。

[北部準州豪日協会 \(AJANT\)](#) は、伊 124 の沈没とダーウィン空爆 75 年を機に、[伊 124 乗員の慰霊碑](#) 建立を計画し、北部準州政府と豪国防省から補助金を受けました。2017 年 2 月、北部準州議会議事堂で慰霊碑銘板の除幕式が行われ、その数か月後、沈没場所を望む海岸付近の公園内に慰霊碑が設置されました。

2018 年 11 月、安倍総理はダーウィン訪問時に同[慰霊碑を訪問](#)、献花を行い、ガナー北部準州首席大臣が参列しました。更に 2019 年 2 月には、AJANT は北部準州政府の支援を得て、癒しの木 (healing plant) の記念植樹を行いました。





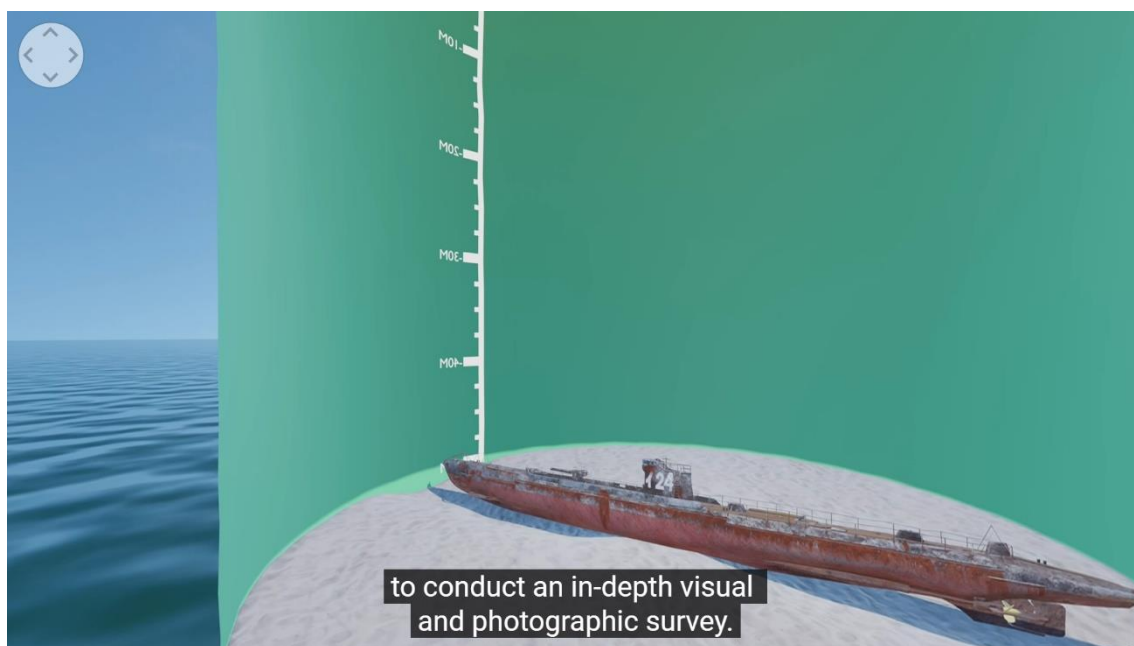
伊号第 124 潜水艦戦没者追悼式での本官 [あいさつ](#)  
(2022 年 1 月 20 日)

2022 年 1 月 20 日の沈没後 80 年に際して、AJANT が追悼式を主催し、ガナー北部準州首席大臣をはじめ日豪双方の政府関係者など約 30 人が参列しました。戦没者ご遺族の千葉七郎氏もオンラインで参加しました。

私は [あいさつ](#) の中で、今の日豪関係と両国が享受する平和と繁栄は、戦時中に失われた貴い命の犠牲の上に築き上げられたものであり、戦後日豪は和解、交流、協力、そして今の「特別な戦略的パートナーシップ」に至る長い道のりを共に歩んできたと述べました。そして、「自由で開かれたインド太平洋」を実現して平和と繁栄を推進する決意を新たにしました。

ガナー首席大臣のあいさつでは、日本の戦没者が眠る潜水艦をこの地で保護することは当然のことであると述べ、戦没者に対して敬意を表しました。

在豪州日本国大使館の麻生防衛駐在官は、トンガへの自衛隊派遣を支援するため急遽欠席となりましたが、代読されたあいさつの中で、2 月のダーウィン空爆 80 年に際して、80 名の戦没者の氏名を明記した銘板の石碑を建立して除幕式を行う予定であると発表しました。この新たな石碑は、日本政府・北部準州政府・AJANT が昨年来共同で準備をしてきたものです。



北部準州政府遺産局バーチャルダイブ動画  
(2022年1月20日公表)

### ●バーチャルダイブ動画の製作

伊124の沈没80年に際して、北部準州政府遺産局は豪州海洋科学研究所(AIMS)及びデジタル海中考古学の権威であるマッカーシー博士他との共同プロジェクトを立ち上げました。高解像ソナー調査を行い、そのデータと潜水艦の図面や写真を活用して、バーチャルダイブの[動画](#)を制作し、[報道発表](#)を行いました。

約4分半の短い[動画](#)ですので、是非ご覧ください！海中にあり、私たちから遠い存在になっている伊124が、今の姿、更には当時の姿をイメージできる動画として再現されたのは、現代のデジタル海中考古学の成果です。

今回の北部準州政府遺産局のプロジェクトにより、当時の歴史がより身近なものと感じられるようになり、今の私たちにとっての意味合いも含めて日豪両国で理解が深まるよう願っています。



本官とガナー首席大臣と麻生在豪州日本大使館防衛駐在官  
(2022年1月19日)

### ●ガナー首席大臣との会談

追悼式の前日に、ダーウィン出張の機会を利用して、ガナー首席大臣との会談を行いました。コロナによるロックダウンや州境規制でなかなか往来できなかったこともあり、昨年2月の前回会談以来、ほぼ1年振りの会談となりました。

今回の伊124追悼式や来月のダーウィン空爆80年関連行事を皮切りに、昨年来の日・北部準州間のビジネスの進展について、十分な時間を取り幅広く意見交換を行うことができました。

ダーウィンにあるINPEXのイクシス天然ガス(LNG)プロジェクトにより、北部準州の最大輸出先国は日本で、対日輸出額の95%はLNGが占めています。それだからこそ、今後は脱炭素に向けての日豪共同の取組が不可欠となっています。INPEXは、ダーウィンでの二酸化炭素の分離回収貯留(CCS)事業や水素事業など脱炭素への取組を積極的に進めています。これを日豪政府が後押しすることで、新たな時代の日豪協力を象徴する事業へと発展することを願っています。

それ以外にも、エビ養殖、海底ケーブル、重要鉱物、観光など、日・北部準州間のビジネス機会の最新状況と今後の協力方針を確認することができました。





本官とバツカリス・ダーウィン市長と  
赤岩自治体国際化協会シドニー事務所長（2022年1月21日）

### ●ダーウィン・北部準州・豪州との協力強化に向けて

今回の出張では、バツカリス・ダーウィン市長ともお会いしました。同じく今回ダーウィンに出張した自治体国際化協会シドニー事務所の赤岩所長とともに、今後の日本とダーウィンの交流・協力強化に向けての方策を話し合いました。ダーウィン市は自らの地の利や多様性を生かして、世界の幅広い都市と姉妹・友好都市交流を行っています。

また、コロナ後の日本から北部準州への観光推進に向けて、北部準州観光局とも意見交換を行いました。ダーウィン記念連合教会も訪問して、戦後間もない時期にダーウィン港の沈没船引き上げ事業を通じて日豪和解に貢献した藤田サルベージ社のご家族ともオンラインでお会いしました。AJANT や INPEX の関係者とも、懇親会の場でゆっくりとお話できました。

伊 124 号追悼式はそれ自体重要な行事ですが、歴史を振り返りながら今後の日本と北部準州、そして広く豪州との協力関係を一層発展させるための貴重な機会となりました。

来月のダーウィン空爆 80 年に際しては、山上大使とともにダーウィンを再度訪問し、伊 124 の 80 名の戦没者名が記された新たな石碑の除幕式に出席する予定です。このような場で、これまで日豪関係に貢献されてきた多くの方々の思いを受けとめて、未来に向けての取組を進めていきたいと思えます。皆様も、ダーウィンを観光される機会には、伊 124 の 2 つの石碑を訪れ、80 年にわたる日豪関係の発展を実感いただけるよう願っています。

在シドニー日本国総領事 紀谷昌彦

(以上)